

ダイビングツアーにおける 事故防止について

今般、沖縄県内においてダイビングツアー中の事故が多く発生しています。これまでの傾向から備えを万全にし、事故防止をお願いします。

気象・海象の確認

天候が悪化する前に避難出来るよう、こまめに気象・海象の確認を行う。

十分な計画と念入りなブリーフィングの実施

実施にあたり、入念な計画と事前にゲスト及びダイビング船の船長等とブリーフィングを確実にを行う。

器材の整備・確認の徹底

器材に異常がないか十分に確認し、予備器材も準備しておく。
ゲストも含めダイバー1人ひとりがシグナルフロート・ホイッスル等の安全装備を携行する。

ゲストの体調管理と技量の確認

体調の確認、持病の有無等メディカルチェックを活用し、また、船酔いや飲酒の有無（前日のお酒が残っている・直前に飲酒している）及びゲストの技量（ブランクなど）の確認など、細心の注意を払い、潜水終了後の体調確認も実施。

ゲストから目を離さない・一塊で行動する

ゲストを見失わないよう、ダイビング実施中は常にゲストの動向を確認するほか、一塊（ひとかたまり）で行動し、潜水終了後、人数確認も実施。
（ドリフトダイビングで見失う事例が発生しております）

連絡手段の確保

ダイビング船や陸上支援者と連絡が取れるよう、位置情報発信装置、耐水・耐圧ケースに入れた携帯電話（スマートフォン）や省電力小型無線機等を携行する。

緊急連絡網・対応マニュアルの整備

万一来るべく、緊急連絡網や対応マニュアルを作成し、常に最新版に更新して確認する。